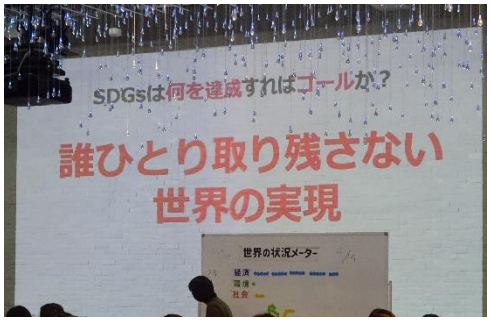
令和５年度　杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	２６３	学校名	仙台市立柳生中学校	校長名	堀部　登美子

1　取組のタイトル，テーマ
「カードゲームでSDGsを体験」

2　取組の紹介



今年度の３学年は，旅行的行事として関東方面への修学旅行を実施しました。その行程の中で，「smallworlds」を訪問し，SDGｓの本質を理解できるシミュレーション型カードゲーム『２０３０SDGｓ』を行ってきました。ゲームは５，６人のグループに分れて行われ，各グループが一つの国と考え，複数のグループが集まって一つの世界になっているという設定でした。そして，各グループには「お金を〇〇円以上集める」「緑の意思カードを〇〇枚以上集める」などの目標が与えられます。生徒は，自分たちの目標を達成するために，配られたカードに書かれているプロジェクトをお金と時間を集めて実行していきます。それにともない，世界の「経済」「環境」「社会」に変化が生まれます。はじめは自分たちのグループの目標を達成することやお金を稼ぐことに意識が向いていた生徒がほとんどでしたが，自分たちの行動によって，世界の状況が刻一刻と変化していく様子を擬似的に体験することで，世界を良くしていくためにはどのように行動すれば良いのか工夫する姿を見ることができました。

3　取組の成果
〔生徒の感想〕
・お金をもうけることを意識すると環境や社会が悪くなり，環境や社会をよくするためにはお金がないとできないことが多く，両立するのは難しいと思った。
・世界の状況を良くするには，自分が他のグループに貢献することが大切だと思った。
・「経済」「環境」「社会」のどれかが飛び抜けていてもだめだし，何かができていないのもだめなので，全てバランス良くやることが大切だと思った。
・最初は「環境」と「社会」が悪い世界だったが，みんなで協力して良い方へ発展し，「経済」も横ばいで保つことができたことが良かったと思う。
・みんなの協力がないとSDGｓ（世界）は動かない。
・自分（個人）の目標だけを意識して生活していくと，世界のバランスをとるのが難しいのだと分かった。環境を良くしていくためには，時間やお金がかかることが多いのだと気付いた。ゲームを通じて，何かを良くするためにはそれなりに失うものが必要だと感じた。少しの意識の変化で世界の状況がかなり変わると分かり，世界全体で協力できたらもっと良くなると感じた。

カードゲームを通じて，２０３０年までの世界を実際に自分たちがシミュレーションすることで「今SDGｓがなぜ必要なのか」「自分たちが生きていく未来に向けてどう実現するのか」を体験的に理解することができました。